

学びの広場

松田幼稚園の活動 ～学校紹介③～

昨年4月に124人の園児で開園した
松田幼稚園の元氣いっぱい活動を紹介します

2倍の規模で開園

平成25年4月、旧第一・第二幼稚園が統合し、松田幼稚園が開園しました。園児数124人、学級数6クラス、職員数19人という、今までの2倍の規模でのスタートです。



開園宣言をする
鈴木良三教育委員会委員長

遊びの王様をめざして

幼稚園の中で中心となるのが、遊びを通しての活動です。園庭では砂場遊び、色水遊び、ごっこ遊び、遊具・用具を使っている遊び、ボールを使っている遊びが中心ですが、幼児に、特に人気があるのは



積み木で何を作ろうか

節を感じたり、仲間意識を向上させたり、自分の命を守る手立てを身に付けたりしていきます。

砂場での遊びです。

室内では積み木、廃材を使っている製作、折り紙、ままごとなどです。

幼児は、これらの遊びを通して、人と人のかかわり方、社会生活を送る上で必要な決まりやルール、小学生以降の教科で必要な基本的な知識や体験、基礎的な運動能力などを学んだり、身に付けたりしていきます。教師は意図的、計画的に場の設定やかかわり方を検討し、幼児の成長を促すようにしています。



みんな大好きな砂場遊び

行事を通して身に付けます

1年間を通して、季節に応じた、また、幼児の安全を守るためのさまざまな行事があります。例えば、入園式、遠足、運動会、お楽しみ会、発表会、歓迎会、豆まき、交通安全教室、防犯教室、避難訓練、修了証書授与式などです。幼児はこれらの行事を通して、季



夏のお楽しみ会
ヨーヨーいっぱい釣れたよ



防犯教室
着ぐるみの「わんたくん」も来てくれた

園外での実践活動

幼稚園の外に出て活動する園外保育では、桜やあじさいの見学をしたり、地域の公園に出かけたりします。幼児は交通安全教室で学んだ安全な歩行や友達と協力する態度を実践するなど、貴重な体験の機会となっています。



アジサイがきれいだった（開成町）
並んで歩いて見ることができたよ

おいしい野菜作り

食育の一環として、農園でジャガイモ、タマネギ、ナス、ミニトマト、キュウリ、カボチャ、サツマイモ、エンドウ、落花生、大根などの農作物を育てています。種をまいたり、苗を植えたりして、それらを育て、収穫し、調理し、食するという一連の活動を通して、自然とのふれあいや収穫の喜びなどを学びながら、普段の活動では得られない貴重な体験を積んでいます。幼児は野菜作りに興味関心を示し、野菜好きになっています。



タマネギを上手に植えたよ
（種まき・苗植え）



落花生いっぱい採れたよ
（収穫）



カボチャを調理して食べたら
おいしかったよ（調理・食する）

地域との交流

地域との交流も大切にしています。集会活動では、読み聞かせの会「ゆうゆう」やコーラスグループ「ゆりかご」、手話クラブ「さくら会」などをお招きし、幼児の前で楽しく活動していただいています。

また、生きがいデイサービス「おーい元氣会」への訪問、交流の他に、小・中学校とは、小学校



「さくら会」の皆さんから
手話を教えてもらったよ



中学生の保育実習
鉄棒と一緒にやったよ

生活科への参加と交流給食、運動会への参加、中学校吹奏楽部ミニコンサートの鑑賞、保育実習、職場体験学習の受入れなど、さまざまな交流を図る「幼・小・中連携教育」に取り組んでいます。

寒田神社（四）

「松田」という地名が初めて史料に現れるのは、鎌倉時代の記録『吾妻鏡』の治承4（1180）年10月17日の記事です。そこには「源頼朝の拳兵に應じなかつた波多野義常が討手を派遣されたのを知り、松田郷において自殺した」とあります。

松田の文化財探訪
《指定文化財とその周辺5》
町文化財保護委員
鈴木一行



版画「アオバスクの雛」
（寒田神社・藪田拓司宮司 作）

この事から、松田という地名が鎌倉以前から存在していたことが分かります。しかし、地名の由来はよく分かりません。諸説あるのですが、そのひとつに「寒田神社の齋田（神に供える米を栽培する田）がこの地にあり、この齋田が祭田→祭田→松田になった」という説があります。寒田神社と松田の関係の深さを示した説といつてよいでしょう。

この地名と共に途絶えること
社にはアオバスクなどの渡り鳥もやってきました。アオバスクは神社などの大木の樹洞に巣をつくるフクロウの一種で、私達にとって身近な野鳥です。しかし、近年、開発などによる営巣木の伐採でその数を減らしています。かつて、松田町自然館の館長でもあった故竹内清氏は「寒田神社の杜は、町の自然環境のバロメーターだ」と述べておられました。

なく続いているのが、当社の杜です。酒匂川の氾濫で社殿が流出しても、杜は残りました。この杜を地元の人々は「かやの木もり」と呼びました。明治初期に編纂された『松田町皇国地誌残稿』にも「社内二老杉老栢數十株林立セリ、故二里俗栢樹杜ト称フ」とあります。しかし、昭和7（1932）年の大風で大半のかやの木は倒れました。樹齢を調べてみると、八百年を超える老木が多数あったとのこと。その後、けやきが植えられました。かやの大木は現在でも6本ほど残っています。